

第2四半期決算説明資料 (2019年度)

2019年11月29日



2019年度第2四半期 決算概要

2019年度第2四半期累計期間の総括

- 当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、個人消費や企業の設備投資など堅調な内需により回復基調で推移しましたが、米中の貿易摩擦の影響や英国の合意なきEU離脱への懸念などがあり、依然として先行き不透明な状況にあります。
- このような事業環境の中、呼吸用保護具全般の受注が期初から堅調に推移したことから、売上高は前年同四半期比12.1%増の50億37百万円となりました。
- 一方、利益面では、商品原価率対前年同四半期比6.2ポイント上昇したものの、売上高の増加に加え、生産効率改善等による製品原価率対前年同四半期比3.1ポイント改善したことから、売上総利益は前年同四半期比13.4%増の15億2百万円となりました。
- 販売費及び一般管理費については、売上増加に伴う諸経費の増加等から、前年同四半期比2.4%増の15億42百万円となりました。
- 以上の結果、営業損失40百万円（前年同四半期は営業損失1億81百万円）、経常損失31百万円（前年同四半期は経常損失1億87百万円）となり、四半期純損失は、33百万円（前年同四半期は四半期純損失1億42百万円）となりました。

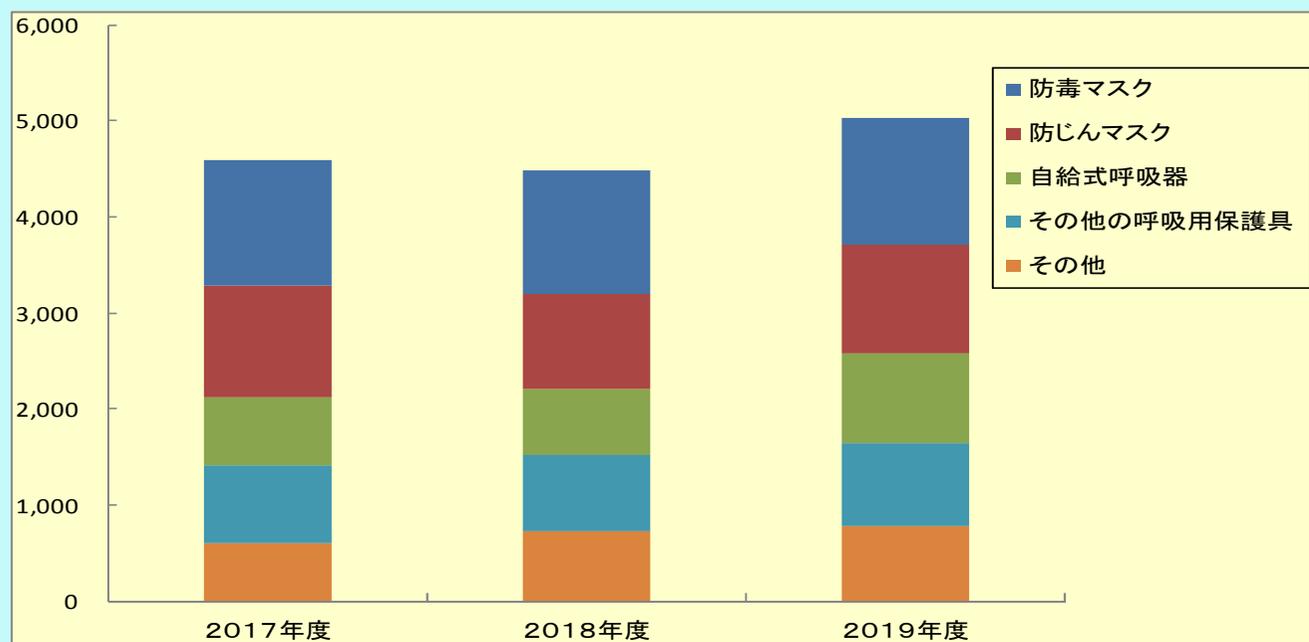
2019年度第2四半期累計期間の損益状況

(単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入)

	18年度第2四半期	19年度第2四半期	前年同期間比増減	備 考
売 上 高	4,491.3	5,036.6	545.3	呼吸用保護具全般の受注が堅調で、前年を上回る水準で推移したことから、売上高は前年同期間比で5億45百万円の増収となりました。
製品製造原価	2,322.0	2,405.0	83.0	前年同期間比で、製品製造原価が83百万円、商品原価が2億85百万円増加し、売上原価全体では3億68百万円増加しましたが、売上高の増収額が大きいことから、売上総利益は1億78百万円増加の15億2百万円となりました。
商品原価	844.7	1,129.4	284.7	
売上原価	3,166.7	3,534.4	367.7	
売上総利益	1,324.6	1,502.2	177.6	
販売費及び一般管理費	1,505.7	1,542.0	36.3	前年同期間比で、販売費及び一般管理費は36百万円増加しましたが、売上総利益の改善を受け、営業損失は1億41百万円改善となりました。
営業利益	△ 181.1	△ 39.9	141.3	営業外収益が前期並みに対し、営業外費用は前期にあったリース解約損等がなかったことから、全体では15百万円改善しました。
営業外収益	33.8	33.5	△ 0.3	
営業外費用	39.6	24.6	△ 14.9	
経常利益	△ 186.9	△ 30.9	156.0	今期も製造機械等の固定資産除却損等があり、ほぼ前期並みの9百万円を特別損失に計上しました。
特別損失	10.9	9.1	△ 1.8	
税引前四半期純利益	△ 197.8	△ 40.0	157.8	法人税等調整額を含めた税負担後の四半期純損失は、前年同期間比で1億10百万円改善の33百万円となりました。
法人税、住民税及び事業税	2.9	2.9	0.0	
法人税等調整額	△ 58.3	△ 10.3	48.0	
四半期純利益	△ 142.4	△ 32.7	109.7	

第2四半期累計期間のセグメント別売上高推移

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

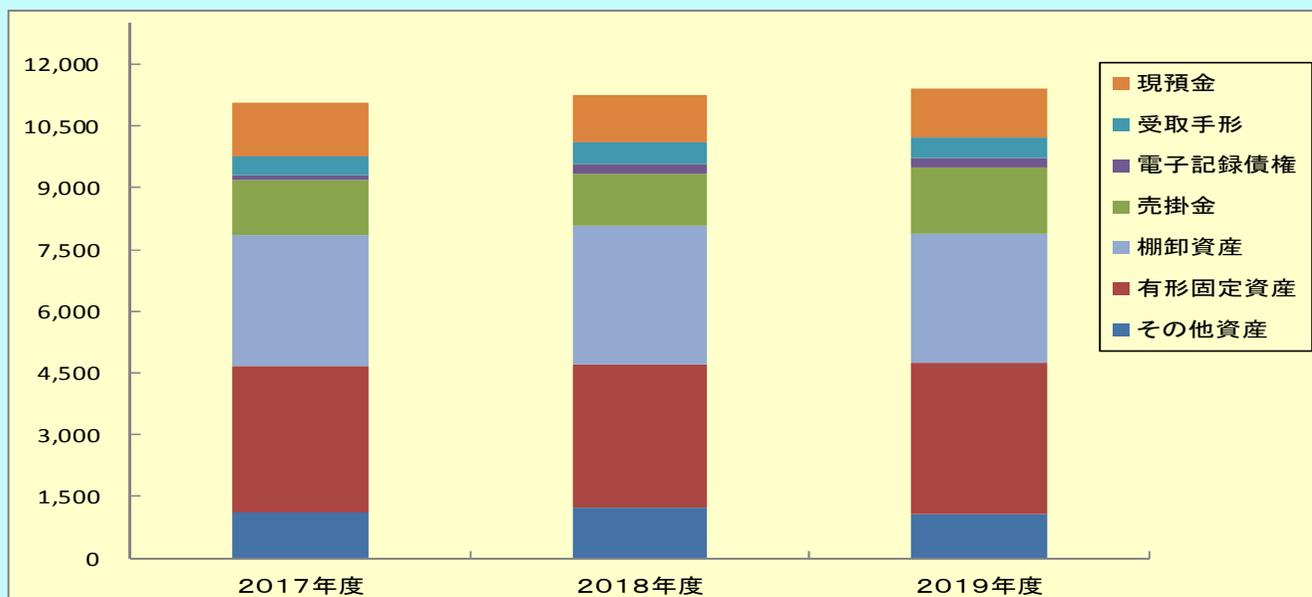
	2017年度	2018年度	2019年度
防毒マスク	1,312.0	1,302.0	1,330.5
防じんマスク	1,164.4	978.5	1,126.6
自給式呼吸器	706.5	687.1	939.5
その他の呼吸用保護具	797.7	801.9	863.3
その他	610.0	721.8	776.7
合計	4,590.6	4,491.3	5,036.6

当第2四半期累計期間の特徴

- ① 期初より呼吸用保護具全般の受注が前年を上回る水準で堅調に推移したことから、当第2四半期累計期間の売上高は、前年同期比で5億45百万円の増加となりました。
- ② 防毒マスクは13億31百万円と、前年同期比29百万円の増加となりました。
- ③ 前年同期比で、防じんマスクは、1億48百万円の増加、自給式呼吸器は2億52百万円の増加となりました。また、電動ファン付き呼吸用保護具の受注が堅調であったこと等から、その他の呼吸用保護具等の合計は、前年同期比61百万円増加しました。その他売上増加は保護衣等の受注が伸びたためであります。

第2四半期末の主要資産状況推移

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

	2017年度	2018年度	2019年度
現預金	1,301.0	1,126.8	1,177.6
受取手形	431.5	520.8	484.6
電子記録債権	147.9	259.1	264.5
売掛金	1,323.1	1,258.5	1,600.9
棚卸資産	3,177.6	3,339.6	3,116.3
有形固定資産	3,539.0	3,493.2	3,665.5
その他資産	1,128.0	1,229.9	1,087.5
合計	11,048.1	11,227.9	11,396.9

注：本表における受取手形には、債権売却手形（資金化分）は簿外のため含まれていません。

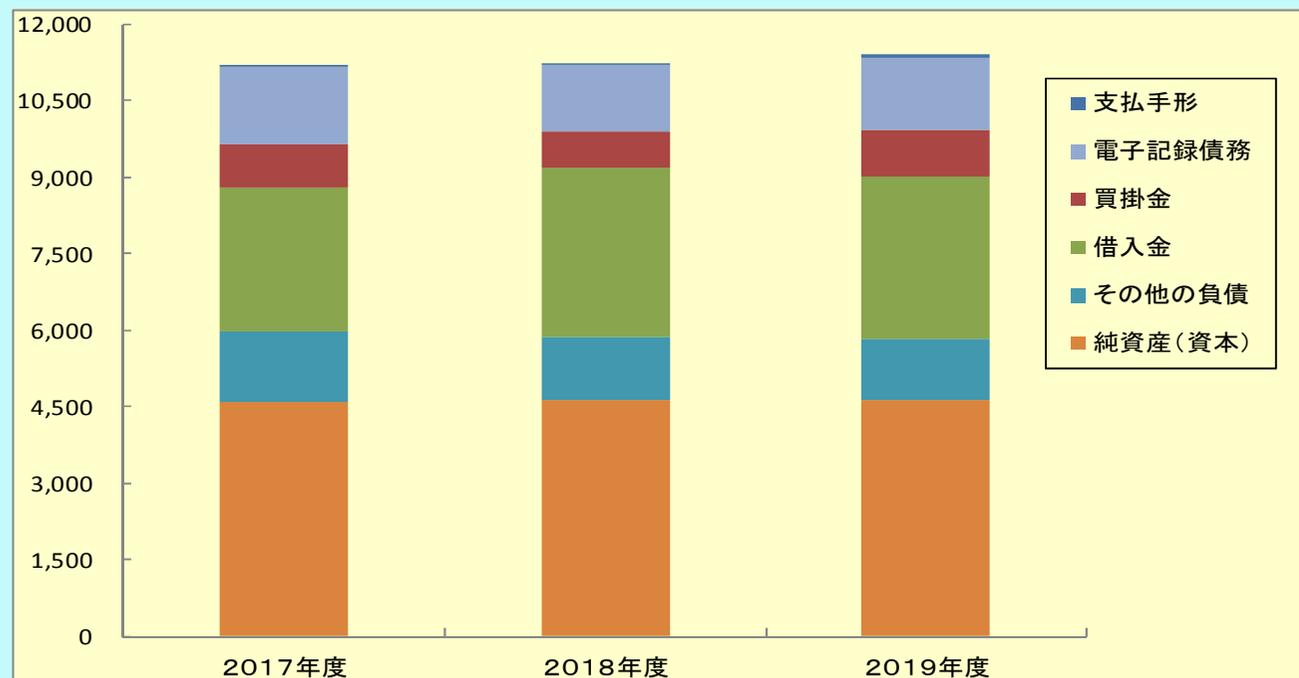
2018年度から「税効果会計基準の一部改正」等を適用し、過年度への計数修正を行っております。

当第2四半期末の特徴

- ① 現預金の残高は、前第2四半期末比では51百万円増加していますが、これは通常の変動範囲内にあるものです。
- ② 売上高の増加を受け、売上債権（受取手形＋電子記録債権＋売掛金）は、前第2四半期末比で3億11百万円の増加となりました。
- ③ 棚卸資産は、下半期の受注増を見込んだ備蓄残が前年比減少したため、前第2四半期末比2億23百万円の減少となっております。
- ④ 新規機械の導入やそれに伴う工場建物の整備などの設備投資により、有形固定資産は、前第2四半期末比で1億72百万円の増加となっております。
- ⑤ 保有株式の株価下落を受け、投資有価証券が前第2四半期末比で1億43百万円と大きく減少した結果、その他資産全体でも、1億42百万円の減少となりました。

第2四半期末の主要負債・純資産状況推移

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

	2017年度	2018年度	2019年度
支払手形	31.3	33.1	48.4
電子記録債務	1,538.0	1,298.0	1,431.1
買掛金	833.6	711.4	915.0
借入金	2,810.0	3,320.0	3,185.0
その他の負債	1,253.2	1,228.2	1,193.9
純資産(資本)	4,582.0	4,637.2	4,623.5
合計	11,048.1	11,227.9	11,396.9

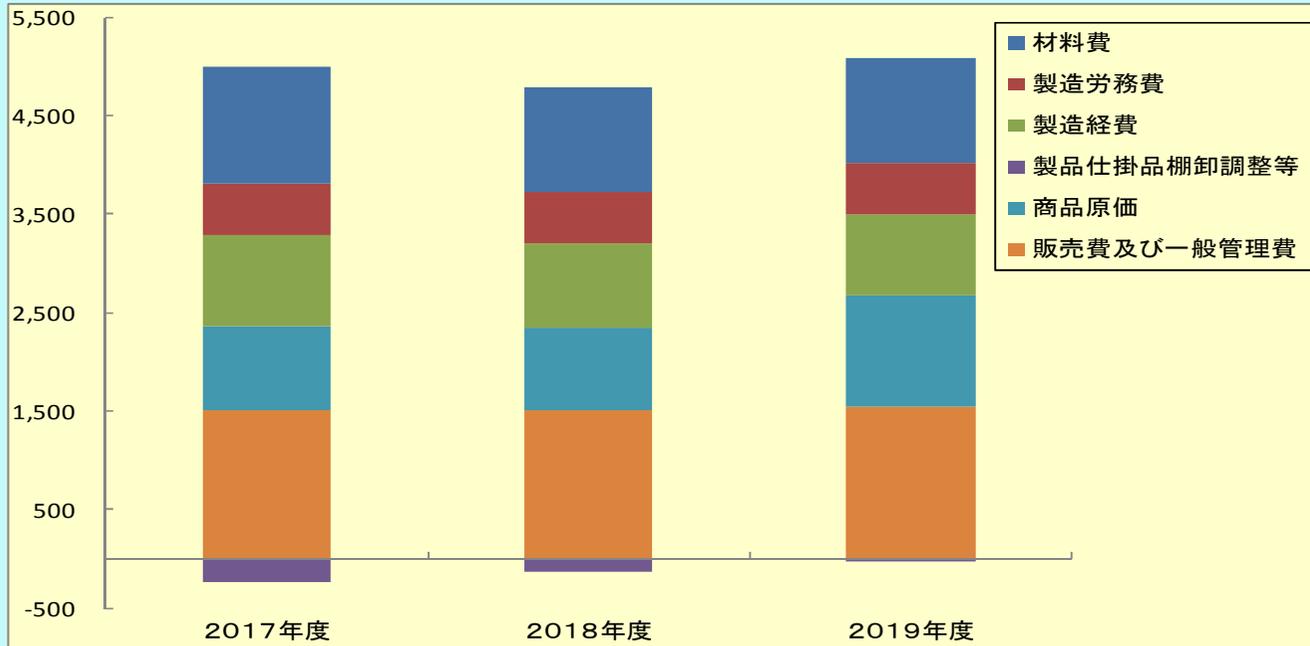
注：2018年度から「税効果会計基準の一部改正」等を適用し、過年度への計数修正を行っております。

当第2四半期末の特徴

- 仕入高の増加に伴い、支払債務（支払手形＋電子記録債務＋買掛金）は、前第2四半期末比で3億52百万円の増加となっております。
- 割引手形による資金調達を進めたことから、借入金残高合計は、前第2四半期末比では1億35百万円減少しています。
- 負債合計は1億83百万円増加、純資産は14百万円減少した結果、自己資本比率は当第2四半期末で40.6%と、前第2四半期末比0.7ポイントの低下となりました。

第2四半期累計期間の売上原価・販売管理費状況推移

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

	2017年度	2018年度	2019年度
材料費	1,177.8	1,067.6	1,051.2
製造労務費	528.2	518.9	528.0
製造経費	924.2	858.7	826.4
製品仕掛品棚卸調整等	△ 236.7	△ 123.2	△ 0.5
商品原価	847.8	844.7	1,129.4
販売費及び一般管理費	1,513.5	1,505.7	1,542.0
合計	4,754.8	4,672.4	5,076.4

当第2四半期累計期間の特徴

- ① 前年同期間比で、材料費が16百万円減少し、製品売上高に占める比率は30.1%となり、3.0ポイント改善しています。

製造労務費は、効率的な生産体制構築のために、製造要員の配置を定期的に見直していますが、売上増加に伴う労働時間の増加もあり、前年同期間比では9百万円の増加となっています。

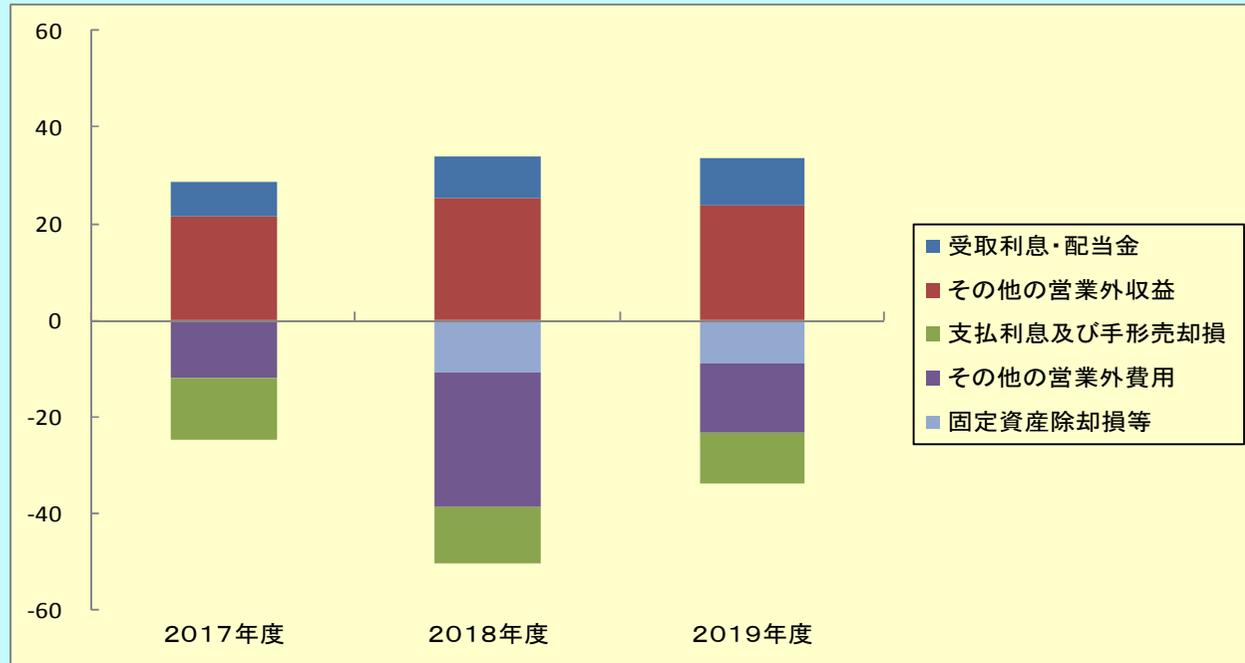
製造経費は、生産効率改善による諸経費削減等もあり、前年同期間比で32百万円減少しました。これにより、製品売上高に占める比率は23.7%となり、2.9ポイント改善しています。

- ② 商品原価率は、前年同期間比6.2ポイント上昇しましたが、これは一部商品の科目変更の影響による一時的なものです。

- ③ 販売費及び一般管理費については、売上増加に伴う諸経費の増加等から、前年同期間比では36百万円の増加となりました。

第2四半期累計期間の営業外・特別損益推移

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

	2017年度	2018年度	2019年度	
営業外損益	受取利息・配当金	6.9	8.6	9.6
	その他の営業外収益	21.7	25.2	23.9
	支払利息及び手形売却損	△ 12.9	△ 11.7	△ 10.5
	その他の営業外費用	△ 11.9	△ 27.9	△ 14.1
	営業外損益合計	3.7	△ 5.7	8.9
特別損益	固定資産除却損等	△ 0.1	△ 10.9	△ 9.1
	特別損益合計	△ 0.1	△ 10.9	△ 9.1

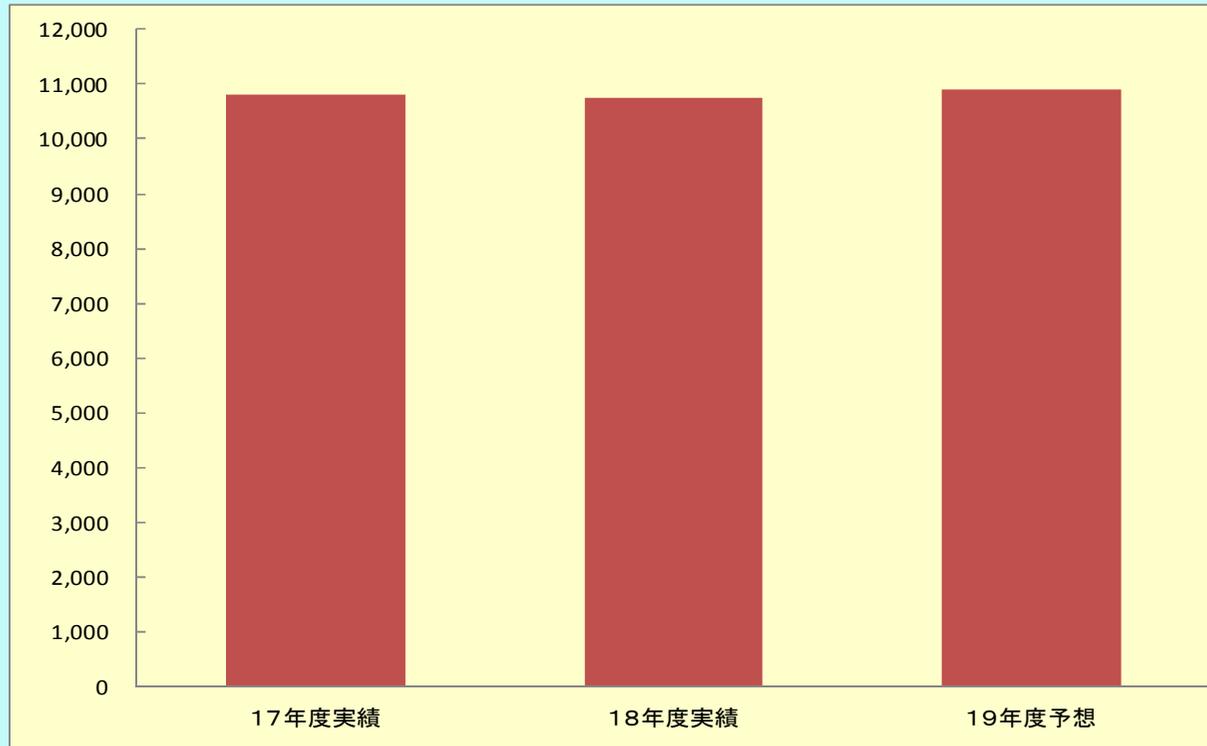
当第2四半期累計期間の特徴

- ① 営業外収益は、前年同期間比で、受取配当金が1百万円増加、受取ロイヤルティが1百万円減少等の変動がありますが、全体ではほぼ同水準となりました。
- ② 営業外費用は、前年同期間比で、為替差損が5百万円減少したことに加え、前期に発生したリース解約損等が本期は無かったことから、全体では15百万円の減少となりました。
- ③ 特別利益に計上すべきものは前年同期間と同様にありません。
- ④ 特別損失は、今期も機械等の固定資産除却損を9百万円計上しています。

2019年度通期業績予想

2019年度通期の売上高予想

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点未満四捨五入

	17年度実績	18年度実績	19年度予想
通期	10,795	10,748	10,900

状況と見通し

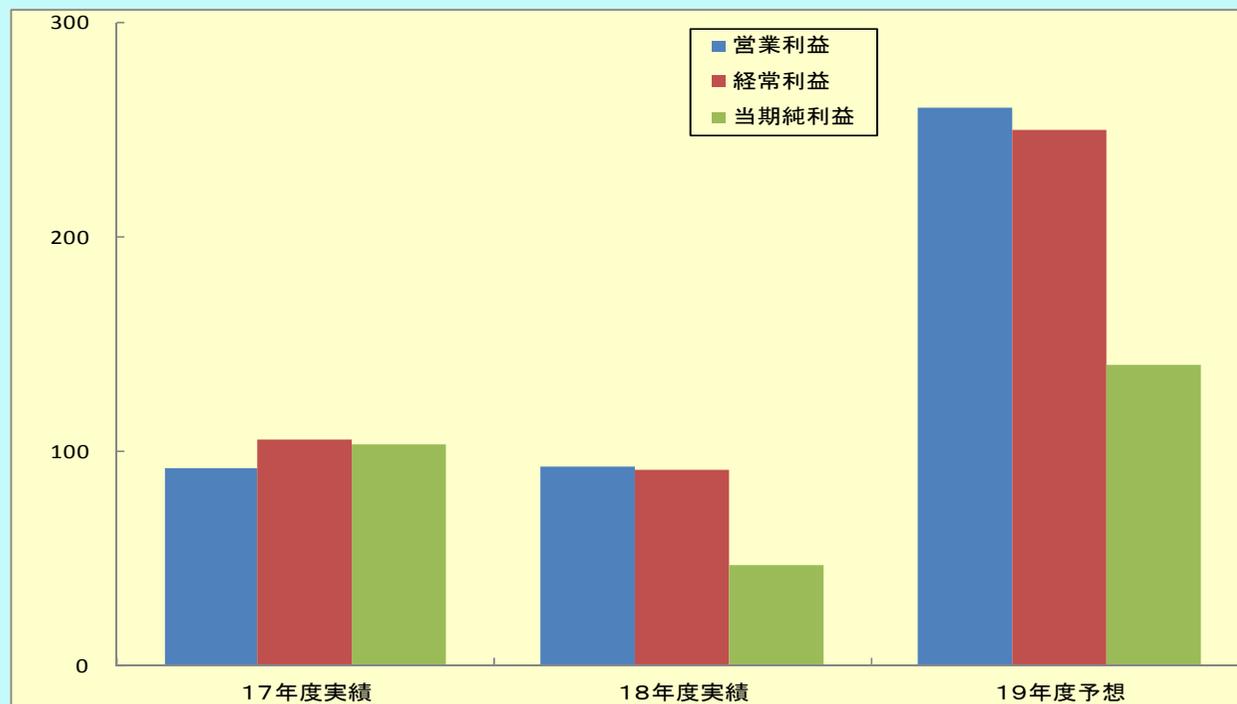
当第2四半期累計期間の売上高は、主要顧客である製造業からの受注が堅調に推移したこと等により、本年5月に公表した業績予想46億円を9.5%上回る結果となりました。

通期の売上高予想値につきましては、当事業年度後半の事業環境や受注動向等を見通しますと、現時点では、本年5月に公表した109億円から大きく乖離はしないものと見込んでいます。

今後、上記の見通しに変化があると予想された場合には、適時開示規則に則り、速やかに業績予想の修正発表を行ってまいります。

2019年度通期の利益予想

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

	17年度実績	18年度実績	19年度予想
営業利益	91.6	92.5	260.0
経常利益	105.2	90.9	250.0
当期純利益	103.4	46.8	140.0

状況と見通し

当社における年間売上高の構成は、前事業年度実績で見ますと、上半期 45 億円、下半期 62 億円（内、第 4 四半期 36 億円）と、恒常的に下半期、特に第 4 四半期のウエイトが高くなっています。

当第 2 四半期累計期間の利益実績は、受注が堅調に推移し、売上高が計画比増加したことから、本年 5 月に公表しました当期利益予想▲40 百万円を、若干上回る▲33 百万円の結果となりました。

現時点では、本年 5 月に公表しました通期の利益予想値につきましても修正は行わず、営業利益 2 億 60 百万円、経常利益 2 億 50 百万円、当期純利益 1 億 40 百万円を見込んでおります。今後、修正が必要になった場合には、速やかに発表を行ってまいります。